

ICOLD をめぐる動き（第18報）

松 本 徳 久*

第24回 ICOLD 京都大会(第80回年次例会を含む)まで、2か月余りとなった。3月23日の時点で参加登録者数は、868名(海外586名、国内282名)と順調な出だしである。6月5日に総会が開かれ、ここで総裁と副総裁の選挙がある。昨年、憲章と規則が改正され、当選した場合任期中に実施する優先課題の表明書を添付することになった。候補者に政策を語らせる改正であり、ICOLDの置かれた状況を反映しているので紹介する。また、改正前は他の国が推薦すれば即立候補となったが、今回から所属国の国内委員会の推薦状が必要となった。つまり自国の承認が条件である。

1. 総裁選挙

中国の賈金生氏の後任を選ぶ選挙である。アルゼンチン大ダム会議の推薦でカナダの A. Zielinski 氏、英国大ダム会議の推薦でブルキナ・ファソの A. Nombre 氏が立候補した。

(1) A. Zielinski 氏の優先課題¹⁾

世界の各国では、異なるニーズと資産(ダムのストック)を持っている。先進諸国では、20世紀に建設されたダムの維持管理に最近の関心が集中している。他のある国では、すでに高度に発達した知識と膨大な資源を新規ダムの速いペースの建設に応用している。また、その他に、ダムの維持管理の必要性があるものの、資源、技術、資金が非常に不足している国もある。ICOLD はほとんどの資源を有する NGO(非政府組織)である。国際的なダムの社会において、約100年の歴史を持ち、これからも発展しようとしている。総裁として、より効率的に知識を技術の発展と移転を支援する。知識共有化の共通の目標として以下の事項を優先課題とする。

① ICOLD と他の国際機関との連携の強化

国内委員会とその会員を通じて、ICOLD は膨大な知識、ならびにさまざまな専門家、諸機関との連携を有している。これらのネットワークを通じての情報と知識を交換するのであるが、ICOLD が戦略的目標と共通の目標に向かって進むことでより効果的となる。2007年のセントペテルスブルグの総会で採択された報告書(国際協力に関する特別委員会)の勧告がこのような活動の指針となる。私は、他の機関への会議に必ず出席し、この結

果をフィードバックし会員への便益増進を図る。

② ICOLD 技術委員会相互の協力の促進

それぞれの ICOLD の技術委員会は、各専門分野での技術の急速な発展を別々の条件下で応用するという挑戦的な仕事に取り組んでいる。設計、施工、維持、管理、廃止とさまざまな分野がある。しかし、重複や矛盾した結論など非効率なこともある。重要な課題の抜け落ちもあるかもしれない。総裁として各委員会間の意思疎通を図る。委員会の審議事項を明確にし、年次例会で進捗状況をチェックする。年次例会の審議時間を長くすることなく、これを実施する。ICOLD のウェブサイトを更新のものにするなど、現代的通信、インターネットを使う。

③ 「アフリカの持続可能な発展のためのダムと水力の宣言」の目的的支持

この宣言はアフリカ大陸における潜在能力の大きなダムと水力資源の発展を実現しようとしている。総裁として、この宣言の目標実現に必要な援助をする。

④ 国連のミレニアム開発目標に向けて ICOLD の活動をふり向ける

国連との協力を強化することにより、ICOLD をより多くの人々に知ってもらい、ダムのもたらす便益への理解を深める。ダムの設計、施工、維持に関して ICOLD は多くの知識経験を有しており、国連のミレニアム目標に以下の点で照準を合わせることができる。

- 各国の持続可能な開発原則への総合的な援助
- 発展のもっとも遅れた国への特別な援助
- 新しい知識、技術の世界的交流

⑤ ICOLD の財政の健全化

財政の健全化という前総裁の仕事を引き継ぐ。これなくして我々の目標と優先課題は実現できない。

以上の優先課題は、これらが実現すれば、人類に便益を与えるダムの建設と維持管理に関して、技術的援助をする世界の指導者としての ICOLD の地位を高めると信ずる。

(2) A. Nombre 氏²⁾

まず始めにダム技術者に絶大な貢献をしてきた ICOLD の諸先輩に敬意を表したい。ICOLD は、世界の水資源と水力の発展に対して、最も適切な技術指針を与

* 一般社団法人日本大ダム会議 常務理事・(財)ダム技術センター 顧問

えることのできる、指導的地位にある国際機関である。ICOLDは今日、国連からのコンサルタント機関として認められ、世界の重要な課題にポジションペーパーを出し、倫理綱領を持ち、情報の発信に努めている。

私が総裁に当選したときの政策は、今日世界が直面している重要課題に基づいたものである。

- 世界中で起きている要求、需要、社会と環境への焦点、ダムの安全・安心へ増大する懸念、発展途上で十分な水、エネルギー、食糧、衛生に欠けるアフリカ、東南アジア、ラテンアメリカの何10億の人々の緊急のニーズ。私は、ICOLDを強化するために副総裁、事務局長、本部、各国委員会、会員と共に働く用意がある。そして世界の水資源と水力のより良い利用と管理に貢献する。

① ICOLD, 地域, 国内委員会の強化

ICOLDの使命の達成に向けて、ICOLDをさらに強化するため以下の仕事をする。

- 国内委員会への援助：特に新会員国には、その国の資源を発展させる役割ができるようにする。通常そのような場合、政府からも援助されているが、ICOLDの活動からも便益をうけるべきである。ICOLDの役員会は、国内委員会同志の協力、地域内の協力、古参の国と新規の国の間の協力を推進する。技術、知識の交流を高めるため、人材育成のプログラムを強化する。
- 地域クラブの活動の活発化を図る。また、若手技術者のICOLDへの参加を増やす。
- ICOLDの技術委員会へより多くの専門家の参加を増やす。技術委員会はICOLDの中核であり、出席できない人は、インターネット等を通じて参加できるようにする。現在の状況は委員会に十分な専門家がおらず、中核としても位置付けられてない。
- 技術委員会の見直し。現在のダム建設では、自然災害の危険度のある地域が多い。洪水、地震、津波、渇水などの専門家の参加を増やす。委員会の活動範囲が必要な課題に見合っているかどうかを常に見直す。安全、気候変動、環境に関連する課題を重視する。
- ICOLDの知識ベースを改善する。ハノイの総会でICOLDの出版物と彙報が各国に無料で配布されるという優れた決定がなされた。これら出版物のその他言語への翻訳も保障されるべきである。ユネスコなどの支援も考えられる。
- 地域、国際機関からの支援。FAOやその他の関係国際機関たとえばICIDが、特に若手技術者と新しい加盟国の活動に対してICOLDの地域クラブなどを支援することが期待される。そのような活動は相互に機関に便益がある。
- ICOLDの財政の持続可能性の維持。未納の会費を

集めること、出費を抑えることが必要である。政府と地域により役に立つことが、そのようなところから、資金を受けることになる。開発途上国では、FAOのような機関から援助を受けることは独立性を侵すことなく、財政基盤を強化できる。

- ② ICOLDのイメージの改善とダム工学へ若手を引き付ける。この10年間で事業計画と発展におけるダム技術者の地位は相当変化した。事業の発展と実施にあたる多分野集団のなかで、工学技術はその主要な要素である。発展した国で新課題に答え、途上国での人材を増加させることが緊急である。気候変動とダムの環境に対する影響への対応も必要である。本世紀のダム技術者像はどのようなものか？有能な若者をこの仕事に魅力を感じさせるにはどうしたら良いか？これらに答えるために、ICOLDはダム工学に影響力ある機関として、世界の教育界に指導と勧告を出すべきである。若手をICOLDの行事に参加するよう促す。

- ③ 低開発国と発展した国の両方の必要性に答える。ICOLDはNPOあるいはNGOとして、すぐれたダム技術者集団としてあるいはユニークな知識集団として、これらの課題に答えられる機関である。ICOLDは世界のさまざまな要求を理解し、意味ある貢献ができるようネットワークを作らねばならない。

国連におけるICOLDの地位を強化し、地域あるいは国内の組織の援助を受けられるようになるべきである。ミレニアム目標は、水、食糧、健康、衛生、エネルギーの社会基盤施設が不十分では達成できない。

ある国々では、社会、環境上健全な計画、展開、実施に必要な能力が欠けている問題がある。ICOLDの国内委員会を技術委員会はこれに貢献できる。

関連機関すなわち、ICID、IWRA、IHA、WFEOその他との協力増進は、ICOLDが国際的に強い地位を維持し、世界の横断的課題の効率的解決を可能にする。

2. ヨーロッパ地区副総裁選挙

ヨーロッパ地区のG. Ruggeri氏（イタリア）の後任として、オーストリア国内委員会の推薦で、スイスのA. Schleiss氏、イタリア国内委員会の推薦でスペインのJ. Polimon氏が立候補している。

(1) Schleiss氏³⁾

- ① 若手技術者をICOLDの大会、年次例会に参加させる

② ICOLDの出版物を広く配布する

③ ヨーロッパクラブ活動の強化

④ ICOLDと大学・研究機関の連携強化

(2) J. Polimon氏³⁾

- ① ダムの操作と安全に関する人材育成のプログラムの実施

- ② 技術移転のため国内組織、地域組織の強化
- ③ 技術委員会の活動を活発化するためインターネットなどの交流手段の発展
- ④ 若手技術者の ICOLD 会議等への参加促進
- ⑤ 気候変動の影響に関して研究促進と対策検討
- ⑥ ダムに関して一般の理解を深める広報活動の充実

3. アフリカ地区副総裁選挙

アフリカ地域の E. Ekpo (ナイジェリア) の後任には G. R. Basson 氏 (南アフリカ) がナイジェリアの推薦で立候補している。

(1) G. R. Basson 氏⁴⁾

- ① 人材育成
- ② 大学マスター、ドクターコース学生への奨学金支給、結果的に将来 ICOLD の有用な人材となる。資金は民間に仰ぐ
- ③ アフリカの加盟国を増やす
- ④ アフリカのダム台帳の充実

- ⑤ 特にアフリカにおける地域計画のためのデータの充実
- ⑥ アフリカの地域を代表する副総裁としてアフリカ地域クラブ活動の支援

多くの候補が若手技術者をダム技術の世界に目を向かせ人材を育成する重要性を主張している。筆者としては、ICOLD の加盟国のうち、かなりの国が会費 (負担金) を未納入であり、このまま放置すれば、ICOLD の財政基盤が崩れる恐れがあるので、財政再建 (会費を徴収、本部支出の削減) のリーダーシップを発揮することを期待する。

文 献

- 1) ICOLD Circular Letter 1837
- 2) ICOLD Circular Letter 1840
- 3) ICOLD Circular Letter 1845
- 4) ICOLD Circular Letter 1846